

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200624		
法人名	有限会社かみさと介護ステーション		
事業所名	グループホーム かみさと		
所在地	埼玉県児玉郡上里町七本木291-1		
自己評価作成日	平成22年3月6日	評価結果市町村受理日	平成22年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174200624&amp;SCD=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174200624&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所以来、日中の玄関・居室の窓など、鍵をかけていない。入居者には何時でも出れる安心感を持って頂いている。無断外出などは無し。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りは田畑が広がり、前方に秩父連峰を望み、眺望が良い。空気も良く、水路の傍に菜の花が咲き、入居者の散歩コースとなっている。垣根や門扉もなく、玄関の出入りは自由に開放的な佇まいである。理念の「和」を基本に、一人一人の症状を理解し、否定しない、待たせないケアを心掛けている。提案ノートを活用しながら、業務の改善に努め、又、管理者は職員の個性を活かし、ねぎらいの言葉を掛け、働きやすい環境にしている。午前・午後に声を出し「梅干し体操」を元氣よく実行し、生き生きとした入居者の顔が見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を常に大切にしている	目指す理念を「和」=なごみとし、入居者・地域・職員との和を大切にしている。職員は意識してサービス実践に努め、新任の研修時にその理念を大切にしよう説明している。	外部の訪問者にも理念実践の取り組みを理解して頂けるよう、目に付きやすい場所に掲示し、「和」が更に充実することが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行の参加や近隣への買物へ出掛けている	開設当初より町会へ入会し、敬老会や夏祭りに参加している。ごみ捨て場の清掃や草むしりを行い、地域と双方向の交流がある。近くの農協産直所へ買物に行き、顔なじみとなっている。又、保育所の子供達との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買物で外出をしているので認知症への対応や理解をえている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催し家族の意見や施設の入居者の状態を報告し話し合いをしている	参加メンバーの協力を得て三ヶ月に一度開催し、家族の要望もあって短時間でやっている。検討するテーマを先に送付し、意見や要望を聴けるようにしている。市町村関係者の参加を頂き、サービス向上に活かせるようにしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡をとり最新の情報を入手している	折に触れ事業所のケアサービスの取り組みや、空き室状況を伝え、相談している。今後も市町村からの情報と協力を得られるように、連携をとって行きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当時から鍵はしない、鍵をすることのデメリットを話しあっている	身体的・精神的な拘束をしないケアを実践している。いつでも出入り自由にしたこと、一人ひとりを理解し、役割を持って頂くことで気分転換が図られ、入居時の不穏がなくなり、落ち着いて暮らしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の資料を配布したり職員のストレスの軽減に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には関係者より情報を入手し対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問には常に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には何か要望がないか聞いている	ご家族との話し合いが出来るように日頃のコミュニケーションを大切にし、随時意見を聞くようにしている。意見箱を設置したが、何年も利用が無く、現在は置いていない。要望があれば運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	果然できる点は改善している	ホームの代表者が一日に二回は訪れ、職員へ声掛けし、要望や意見を聞いている。これまでに夜勤の回数について要望がだされ、代表者・管理者・主任が検討した事を職員と話しあい、運営に反映させている。	職員のチームワークの良さが、入居者の落ち着いた暮らしにつながっている。今後もミーティング・個別面談・勉強会を通じて職員の声を聞く努力が継続されることが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金や健康に配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社長を含めケアの方法を勉強している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの意見交換やケアの勉強をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの構築に努めている 表情の観察に配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しを全て受身で聞いて1つ1つ解決をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前・後に家族と話し合い必要なサービスについて話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの家族として出来る入居者が出来ない入居者の手助けをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力して本人がどの様に施設で生活出来るかを相談している。数名は家族との不仲あり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、ボランティアに協力してもらい地域との繋がりを大切にしている	親戚・友人との継続的な交流が出来るよう、訪問時に「また来て下さい」とお願いし、電話も手紙の往復も自由に行って頂いている。ボランティアの訪問や、小中学生が通学や下校の際声を掛けてくれる事が楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に仲介に利用者の関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も亡くなった家族との今でも交流がある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑談中にコミュニケーションをとりながら本人の希望を聞きだしている、困難の時は家族に聞いている	日々の関わりの中で意向の把握に努めている。夜勤の職員が一人一人に向き合い、時間をかけて本心を聞くよう心掛けている。コミュニケーションが困難な方については、相手の立場で考え、表情等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活習慣を変化させること無く支援をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の能力に応じて暮らしの支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に個々の生活を考え本人がどの様に生活をしたいかを家族と考え作成している	入居時に家族から聞いた本人の得意な事が継続して活かせるよう計画している。暮らしの中で見えてくる生活歴・職歴等から、本人にとって良いケアにつながる計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	社長や職員と共に介護の工夫をして勉強をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が地域の中で本人らしく生が出来る様に地域の施設と協力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の前に消防署があるので入居者が安全に生活できる様に協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の相談の上、疾患にあつた病院を選択をしている	往診・受診や専門医の紹介等を説明し、家族がホームの協力医をかかりつけ医とすることを希望する機会が多い。月に一度の健康診断(血液検査)の結果を家族に伝えている。週一度の訪問歯科検診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期受診をして病気の予防と発見に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLや認知症が進行しないように主治医と相談をして早期の退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に疾患(癌)の終末期はどうしたいかを話しあっている。開設当時から3件のターミナルをしている	入居後に病状が進行し、往診では維持出来なくなった場合に、医者・本人・家族・職員が話し合い、意志を尊重して支援している。今も看取った家族から、命日や法事の案内等があり、交流が続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊を要請して勉強会を開催していると同時に施設内で講習会をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地主・社長の自宅が近いのと、施設前のは消防署が近い為に協力体制を話しあっている。	消防署分室が垣根もない庭続きにあり、入居者の安心につながっている。近所は若い世帯が多く、付き合いが薄く、認知症の理解もあまり得られていない為、今後運営推進会議等で協力を呼び掛けて行く予定である。	周辺の住宅は、昼間留守がちである為、コミュニケーションが取りにくい状況だが、声掛けを根気よく続け、工夫しながら理解を得て、災害に備えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が昔、呼ばれていた名前で家族の了承をえて下の名前と呼んでいる	家族の同意を得て、親しみのある名前で呼び、対応している。職員は「人前での排泄の会話を禁止」に心掛け、チャイムの音色を聞き分け、確認し合い、「どこに行くの」と聞かない等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から本人の思いを聞き出して自己決定できる様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが本人の希望や天気によりスケジュールを変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の散髪をしている。買物に出掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに入れる人は野菜を切ったりしている食事は丸テーブルを活用している	とても大きな丸テーブルに入居者・職員が座り、皆の顔を見ながら賑やかに食事をしている。盛り付けや配・下膳、食器洗等の仕事をする事で自信となり、心身の向上につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を記入している、水分は職員が担当して責任を持っておこなう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用をし、普段は職員見守りをして衛生を努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のレベルに合わせた排泄介助を支援している	決められた時間にトイレ誘導をしているが、基本的には何時でも行ける支援をしている。入居時は車椅子の方もゆっくり歩行を支援し、下肢筋力がつき、排泄の自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る事無く運動や食事に対応をし、身体的に低下している人は腹部マッサージや温あんぼを対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回夕方16時～開始し季節に応じた花や果物を入れて楽しんでいる。希望浴も対応している	週二回夕方四時から実施している。希望があれば随時入浴、柚子・椿の花・菖蒲を入れ、入浴を楽しんでいる。車椅子の方も浴槽につかれるように、職員のチームプレイで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休んで頂く為に天気の良い日は布団を干している。寝具の週1の洗濯		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している、薬について勉強をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を活かして認知症の進行予防に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いは散歩に出掛け近隣との交流に努め、季節には社長に協力をして頂き遠方に外出している	強風と雨以外は散歩が日課となっている。地域の方と顔なじみとなり、声を掛け合い交流している。野菜や生け花の差し入れ等があり、花は居室やリビングに飾り、眺めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る人は管理をもらい、買物等に参加している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除の時に窓を開けて空気の換気に努めている不快感の無いように対応している。テーブルには季節の花を生けている	リビング兼食堂は、天井が高くプロペラがゆっくり回り、広々とした空間となっている。大きな丸テーブルの上に生け花があり、清掃も行き届き、匂いもなく、刺激音も無い、落ち着ける場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには2種類の椅子があり、入居者の好きな場所に座ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた家具や仏壇を持参していただいている	入居時に出来るだけ本人の使い慣れた品を持ち込んでいただくよう伝え、仏壇・人形等が置かれている。家具の配置は好みで決め、居室の掃除は自分で行い、居心地良く管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた責任感のある仕事をして頂き自立ある生活の支援をしている		